



「書くこと」についての現状を共有しました!

11月に入り、2学期も残り一か月と少しになりました。朝はめっきり寒くなりましたが、日中は日差しも強く、まだ半そでで過ごす子どもたちもいるほどです。先月末に運動会が終わり、今月は6年生は修学旅行、他の学年は校外学習へ行き、秋を満喫しています。

先日、校内の人権・学力向上委員会で、各学年の学習の様子を報告し合い、下記のような現状が見えてきました。

成果

- ◎書くことに対して、抵抗感がなくなってきた。
- ◎相手や目的を考えて言葉を選び、文章を書こうとしている。
- ◎「はじめ」「中」「おわり」などの構成を考える姿が見られる。
- ◎意欲的に学習に取り組むようになってきた。
- ◎タブレットを活用で、苦手な子でも文章が書けるようになった。

課題

- ▲課題に対して、じっくりとていねいに取り組むことが苦手。
- ▲自分の書いた文章を読み返さない。
- ▲すらすら書ける子と、なかなか書くことがむずかしい子の二極化が見られる。
- ▲タブレットだと書けるが、手書きだと難しい。

学年によっての違いはあるものの、学校全体としてはこのような現状です。話題に上がったことは、タブレットの使い方です。書くことが苦手に子どもにとっては、文字を手で書くよりも抵抗感がなく自分の考えを表現できるよさがあります。しかし一方では、じっくりとていねいに考えて書かないので、誤字が増えたり、語や文にこだわって書いたりすることへの意識が薄れてしまっているという課題もあります。タブレットを使い慣れた今からは、ICTの活用をどのように効果的にしていくのかを考えることも、授業づくりにおいてしっかりと考えていかなければいけないと感じました。

25日には、1年生の研究授業が行われます。そのため、2年生から6年生の子どもたちは4時間授業で下校します。鳥小の全教職員で授業づくりについて考える貴重な時間にできるよう、授業後の研究協議では、よりよい授業にしていくためにはどうすればいいのかを、しっかりと考え、話し合いたいと思います。



「活字のパンフレット」と「手書きのパンフレット」 読みたくなるのは、どっち!?

6年生は、国語の『鳥獣戯画』を読むの授業で学んだ「書き方の工夫」をいかし、平和学習や修学旅行で学んだことを下学年に伝えるためにパンフレットを作りました。その際に、『タブレットを使うか』『手書きで書くか』を、自分で考えさせました。はじめは「楽だから」の理由で、タブレットを使う方が圧倒的に多かったのですが、考える観点を示して再考させた結果、タブレット派13人、手書き派18人という結果になりました。子どもたちからでた意見が実に興味深かったです。

◎選ぶ際に考えさせたこと

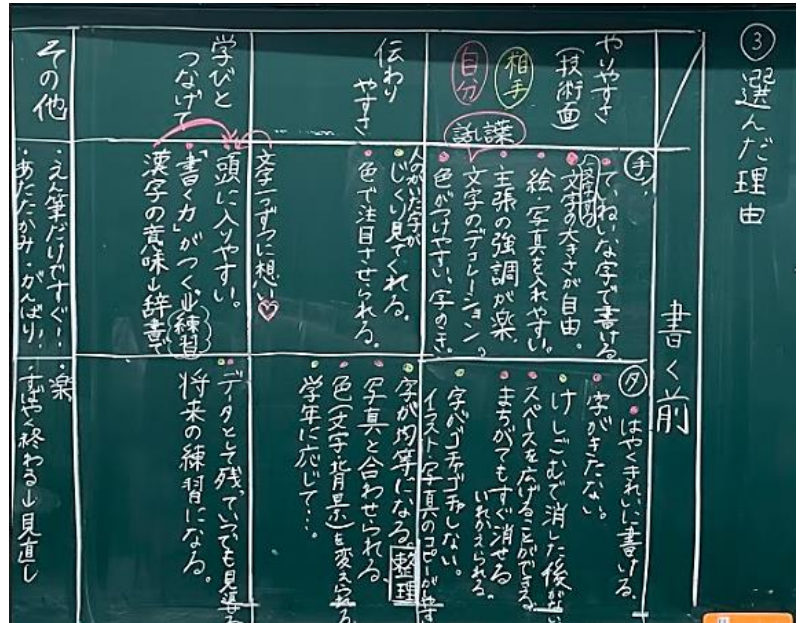
- よりよく伝わるか(相手)
- 自分の学びにつながるか(自分)
- やりやすさ(技術等)
- その他



多かった意見では、②「時間短縮できる。」「まちがっても修正が楽にきれいにできる。」「均等な字で読みやすい。」「写真やイラストも簡単に貼り付けられる。」③「文字を自由にデコレーションできる。」「活字の手紙は読まないけど手書きのものは読んでしまうから。」「受験やテストは手書きだから練習のため。」「あたたかさが伝わる。」などがありました。

また、なるほどなど、思った意見としては、④「早く終わるぶん、見直しの時間や、『よりよく』するにはどうすればいいのかを考える時間が取れる。」「自分の作品をどんどん保存でき、いつでも取り出せる。」⑤「一生懸命に時間をかけて書くと、その分、達成感がある。」「人が書いた字にはパワーが宿るから、書き手の思いが読み手に伝わりやすい。」など、今までの経験や知識をふまえ、しっかりと見通しをもちながら考えられている様子うかがえました。下にタブレットと手書きのパンフレットの一例を載せています。また、完成ではなく推敲中のものですが、どちらも、学んだことを生かしながら、相手や目的意識をもち、ていねいに作られていることが伝わるとおもいます。

このように、これからは、目的に応じて「アナログ」と「デジタル」を効果的に活用することを、子どもたちと一緒に考えていくことが大切ではないかと、授業をしながらますます考えさせられました。



せんそう 戦争の影響

えいきょう

せんそう まち 戦争は街に 人にどんな影響をあたえたのか

えいきょう ちがひ 次はあなた達が考える番です

想像もできない戦争の被害

せんそう ひがい

食卓に行くと...

食卓には、戦争の影響が色濃く残っています。...

食卓にできること

〜筆で伝える〜

平和の大切さを伝えるために、食卓にできることを考えてみましょう。

食卓をかけた子供達の生活

食卓には、戦争の影響が色濃く残っています。...

食卓にできること

〜筆で伝える〜

平和の大切さを伝えるために、食卓にできることを考えてみましょう。

4年

登場人物の変化を中心に読み、物語をしようかいしよう！

「プラタナスの木」

「プラタナスの木」には、マーちゃんと、3人の友だち、アラマちゃん、クニスケ、花島くん、そして不思議なおじいさんが登場します。マーちゃんがおじいさんと会ったのは、梅雨明けの頃です。不思議な話をするおじいさんに、最初マーちゃん達は「興味がない」と思っていたと思います。理由は、「ある日、おじいさんは不思議なことを言った」と書いていて、マーちゃん達は話の内容を理解していなかったからです。マーちゃん達の気持ちが変わったのは、三場面から四場面の間だと思えます。三場面で大きな台風が来て、プラタナスの木がたおれてしまっています。マーちゃん達は、心配の言葉をたくさん発言しているのがわかる場面だから気持ちが変わったのは、三場面から四場面の間だと思えます。

最後まで読むと、「おじいさんとまた会える」と思っていると書いてあるけれど、心の中では、会えないかもと思っているとわかります。理由は、文に「また芽が出ればおじいさんに会えるだろう」と、書いてあるからです。

この物語の魅力は、マーちゃんがおじいさんと仲良くなっているところです。もともと知らなかったおじいさんとなかよくなるところが好きです。

四年生児童

場面と場面のつながりを考えながら、マーちゃんの気持ちの変化を叙述から根拠をもって想像していますね。文章だけでなく、言葉一つひとつをていねいに読んでいたことが分かります。

山崎先生



5年

グラフや表を活用して、自分の考えを分かりやすくまとめることができます。赤尾先生

摂津市は暮らしやすい方向に向かっている。わたしは、摂津市の社会が、暮らしやすい方向へ向かっていると思います。なぜなら、正答率が平均を超えてきているからです。さまざまな分野でタブレットなどの復習や授業が進んでいます。わたしの周りでも、タブレットで復習したり宿題をちゃんとしたりするなどいろいろなところで授業のことを生かしている人がたくさんいます。

左のグラフは、全国と摂津市の正答率を示したものです。表は、全国と摂津市の正答率を比べたものを表し、棒グラフは、平成三十年と令和一年を比べたものです。これを見ると、上の表は平均を超えていないですが下の棒グラフは、昔と比べて正答が増えていることが分かります。棒グラフの算数の令和一年の五年生と昔の五年生の正答率を比べてみましょう。平成三十年は全国を超えず、約0.92点で、令和一年は全国を超え、約1.02点で、約0.10点増えていることが分かります。摂津市は昔より高く、または全国の平均を超えているのはタブレットなどインターネットの進化と関わりや開発などが進むと環境が良くなると思います。このまま一人一人が努力をして学ぶことで、これからの摂津市の平均も高くなり、ルールなども守れる環境良い方向へ向かっていることができるでしょう。

このように、表とグラフをもとにして、摂津市の平均は全国と昔を超え、昔の摂津市の平均を数年で約0.10点増えていることを述べました。正答の平均が高いほど開発などでさらに環境が良くなったりできるバランスの良い社会と言えるでしょう。摂津市の社会は、暮らしやすい方向に向かっていると思います。

五年生児童



6年

戦争中の暮らしや食べ物

みなさんは戦争中の生活の苦しさを知っていますか。そう、サツマイモやジャガイモなどを食べ、食料や衣服なども自由に手に入らなかったのです。ぼくは、みなさんが同じような思いをしないために、戦争はしてはいけないと思っています。ここで、戦争中の暮らしについて学んでいきましょう。

まず、食べ物です。今は、白ごはんや肉・魚などをたくさん食べています。しかし、戦争中はどうでしょうか。はじめに書いたように、ジャガイモやサツマイモしか食べられず、食べること自体がありがたかったのです。

次は、生活についてみていきましょう。今はお金でなんでも買えるし、スマホがあれば大抵のことができますよね。しかし戦争中は、衣服、燃料、食料、すべて自由には手に入らなかったのです。しかも、医薬品も少ないため、生きていくことが大変だったのです。つまり、生きていくことだけでも地獄のように苦しかったのです。それを知って、ぼくは、「こんな生活、絶対したくない！」と思いました。

どうでしょうか、今と比べ、戦争中の生活の苦しさが分かりましたか。戦争中の生活は、こんなにも苦しいのです。ここで学んだことを、今度はあなたがほかの人に伝えていってください。

文章の構成がしっかりと考えられているので、筋の通った伝わりやすい文章になっていて、読みやすいです。坂本先生

六年生児童



みてみて♡鳥っ子エッセイ No.9

1年



ならったかん字をつかってひょうげんできました。しもてせんせい

くじらぐもの上ではなしたこと

「大じょうぶ。ぼくにつかまって。」

「おちるー。」

「たのしいねー。」

「まちがちいさいね。」

一年生児童



2年

なんで「サチアレ」が一番心につけていたのか、とてもよくわかる作文が書いています。

木村先生

うんどう会で一番心につけていたこと

十月二十九日土曜日、学校で運動会をしました。一年生と二年二組としました。

運動会でわたしが一番心につけていたことは、サチアレです。理ゆうは、三年生から六年生みんなが見てくれてうれしかったからです。心の中でぜったいわらってくれると思っていました。うんどう会で、ママやパパがおうえんしてくれたから、一番よくできました。ぜんぶうまくできたからうれしかったです。

ママとパパが、「一年生の時よりがんばってたね。」とほめてくれたので、うんどう会ってこんなに楽しかったのかと思いました。

二年生児童

土曜日に、うんどう会がありました。

ダンスと50メートル走をしました。ダンスは、きつねダンスとサチアレをしました。はずかしかったけど、きつねダンスとサチアレができてよかったと思いました。50メートル走は、一番になれなくて、くやしかったです。でも、がんばったのでよかったと思います。みんなが思ったよりはやくてびっくりしました。みんながうれしいことをいってくれ、うれしかったです。ほかの学年のダンスとリレーを見ました。ぜんぶのクラスがすごいと思いました。はずかしかったけど、ダンス、50メートル走ができてよかったと思いました。らい年のうんどう会、は、もつとたのしいうんどう会にしたいと思います。

二年生児童

はじめ・中おわりがしっかり書けました。気もちもくわしく書くことができました。

栗田先生



3年



すごく楽しかった運動会

十月二十九日土曜日、この日は、わたしが一番すきな日です。なぜかという、その日は、運動会があった日だからです。

わたしたち、三年生と四年生でやるのは、ダンスと八十メートル走です。一ばんさいしょに八十メートル走を走ります。わたしは、うしろのほうです。わたしのたいせんあいては、3人です。わたしのばんがまわってきました。わたしは、二位になりました。一位になれなくてすごくかなしかったです。

次にわたしたちは、ダンスをしました。おきなわのうたです。わたしたちは、パーランクをつかいました。わたしはおどりおわたあと、ちゃんとできてうれしかったと思いました。

三年生児童

運動会に対する思い、競技や演技中の気持ちがとてもよくわかります。

柳田先生

